

第27期
報告書

2008.2.21~2009.2.20



顧客満足業を目指して

「意識改革」と「行動」による変革

地域のお客さまの豊かな暮らしを支える企業であり続けるために…。
揺らぐことのない理念「お客さま第一」を礎に、変化を恐れず、挑戦する気持ちを忘れず、一步一步前進していきます。

売上高

2,118億円



店舗数

144店舗



全従業員数

14,458名



“

さらなる成長と競争力強化を目指して「お客さま第一」の視点から各分野の変革に取り組み、厳しい経営環境のなか、増収増益を達成しました。

”

株主、投資家の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。第27期報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援、ご鞭撻に心より厚く御礼申し上げます。

経営環境と業績

当期の経営環境は、「100年に1度の経済危機」と称されるが如く、急激な情勢変化による世界経済の失速とともに国内景気指標はことごとく減退し、消費マインドも低調なまま推移しました。小売業界においても、お客さまの節約志向や生活防衛色が一段と強まり、競争の激化、少子高齢化や人口減少による絶対消費量の縮小傾向も加わり、大変厳しい環境となりました。

そうしたなか、当社では原点である「お客さま第一」の姿勢を基に、当期のスローガンである“「意識改革」と「行動」による「変革」”に則り、さらなる成長と競争に打ち勝つ収益構造の構築を目指して、各分野での取り組みに努

めました。地域のお客さまのライフスタイルとニーズの変化に応じた店舗ごとの品揃えの実施、価格志向商品への対応強化、新ITシステムの活用などによるローコスト・オペレーションの推進といった諸施策を通じて、生産性の向上を図りました。その結果、当期の業績は増収増益となり、営業利益、経常利益、当期純利益は、いずれも過去最高益を更新することができました。



代表取締役社長
藤本 昭

■ 重点施策 (2010年2月期)

1. 意識改革による現場力の向上	EDLPの推進と定着 など
2. 働き方改革によるローコスト運営	生産性の改革の継続 など
3. 次世代に向けた新業態の構築	地域特性に応じた新たな業態の構築 など
4. 組織改革と社会的責任の醸成	内部統制システムの導入 環境保全への取り組み など

■ 出店計画 (2010年2月期)

新店	9店舗
活性化	10店舗
閉店	2店舗
投資額	90億円
減価償却費	45億円

2010年2月期の重点施策

① 当期以上の厳しさが予想される2010年2月期の重点施策として挙げられることは、意識改革による現場力の向上です。特に、いつでも「本当に安い」と実感していただける質の高い商品を提供するEDLP(エブリデイ・ロープライス)の推進と定着が重要となってきます。マックスバリュ西日本は、イオンのPB(プライベート・ブランド)商品である「トップバリュ」をEDLPの柱として展開しており、お客さまから高い支持をいただいています。しかし、デフレ傾向が鮮明となり、すでに競合各社間で値下げ競争が激化している現在、従来のスタンスでの拡大は困難であると認識しています。イオングループでは、お客さま満足の実現に向け、NB(ナショナル・ブランド)と同等の品質をディスカウンター価格で販売する「ベストプライス by トップバリュ」を本格展開するとともに、NB商品の価格の引き下げも推進しています。

当社も、イオングループの一員として、この新たな価格戦略を実践し、「お客さま第一」を追求していきます。

② 次に、ローコスト運営の確立が重要となってきます。当期に一定の成果を生み出した全社をあげての生産性の改革に引き続き取り組み、働き方改革によるローコスト運営を実現していきます。

③ 店舗展開においては、少子高齢化など時代の変化とともにお客さまのライフスタイルも変遷しており、従来の店舗展開では多様化するニーズに応えきれなくなってきました。そのため、地域特性に応じた新たな業態を構築していく考えです。その一環として、2008年6月に「フード & プラス」をコンセプトに新たなザ・ビッグ業態として出店したロックタウン周南店を皮切りに、この新業態での出店を加速させていきます。

■ 新省エネシステムの導入効果

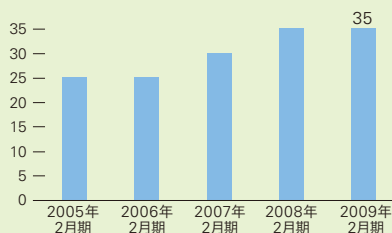
- 太陽光発電
- LED照明
- 調光センサー
- オーバーキャノピー照明

導入

従来より約30%
電力量削減

■ 株主還元

1株当たり年間配当金(円)



4. 昨今、企業の社会的責任への要望が高まり、従来にも増して環境問題への対応が重要視されています。そのなかで、当社の持続的成長と環境保全の両立を図りつつ、より良い地球環境を次世代に引き継ぐことを目指し、さまざまな取り組みを行っています。現在、新店・改装店舗において、省エネシステムの導入を順次進めており、CO₂排出削減効果、および電力量削減効果が着実に現れてきています。同時に、レジ袋無料配布の中止も推進しており、地元行政や消費者団体の多大な協力もあり、現在78店舗にまで広がっています。

また、2010年2月期より、組織、業務の適正を確保する体制を構築していくため、内部統制システムを導入していきます。この内部統制を通じて、健全な経営体制の維持に努め、さらなる信用力向上を目指していきます。

株主還元

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を充実させることを経営の重要政策と位置付け、安定的な配当の実施に努めています。当期の配当金につきましては、1株当たり35円とさせていただきます。

今後も安定した配当を継続し、株主の皆さまのご期待に応えるべく、企業価値の向上と株主価値の最大化を目指し、全社一丸となって努力していきます。変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

藤本 昭



トップバリュ

イオンのプライベートブランドのトップバリュは、衣・食・住合わせて約5,000品目を揃える総合ブランドです。環境や健康などお客様のライフスタイルに応じて展開する商品や、品質機能と価格軸で体系分けした商品などでブランド名称を分化しています。お客様の声に応えながら商品開発・品質向上に取り組むとともに、食品製造においては添加物使用の削減に努めています。さらに商品の原材料・包材には環境負荷の少ないものを使用し、安全と環境に配慮した安心な商品をお届けしています。また、お客様が必要としない商品の量や機能を省くこと、イオングループならではの強みを活かすことにより、低価格を実現しています。マックスバリュ西日本では、「トップバリュ」の拡販を推進しており、当期の売上高構成比は前期の7.4%から8.6%へと伸ばすことができました。



生活の基本アイテムを安心品質・お買い得価格でお届けする衣食住ブランド



ヌードル しょうゆ味

えび・たまご・肉・ねぎが入ったボーク・チキンベースのしょうゆ味ヌードルです。



人と環境にやさしい農・水・畜産物と、それらから作った加工食品ブランド



特別栽培米

農業や科学肥料の使用量が当地比5割以下のお米です。



素材、産地、製法、機能にこだわった高品質ブランド



カットわかめ
(原そう・三陸わかめ)

リアス式海岸の波にもまれて育った、肉厚があり弾力性に富んだわかめです。

— ベストプライス —
BESTPRICE
 by TOPVALU

ベストプライス by トップバリュ
 生活の必需品を納得品質・低価格でお届け

昨今の急激な経済環境の変化のなか、お客さまの期待にお応えするため、生活の必需品を納得品質・低価格でお届けする「ベストプライス by トップバリュ」の販売を強化していきます。トップバリュ全体の中での売上構成比を大幅に向上させ、EDLP（エブリデー・ロープライス）を実現していきます。



食パン
味付おかずのり



リサイクル・クリーン・ナチュラルの視点で開発したエコロジー商品ブランド



重曹電解水
マルチクリナー

重曹から電解水を精製した、環境にも人にもやさしいマルチクリナーです。



安心でおいしい食卓を短時間で実現する簡単・便利な調理済食品ブランド



黒酢入り酢豚&高菜炒飯
ちんげん菜のクリームソース煮付
黒酢入りの酢豚とごま油の風味をきかせた高菜炒飯セットです。



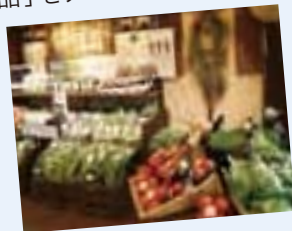
健康と美を快適につくお手伝いをする商品ブランド



プロバイオティクス
プレーンヨーグルト 無脂肪
人気のプロバイオティクス乳酸菌使用の無脂肪ヨーグルトに、ビタミンDを加えたヨーグルトです。

地域に根ざした地産地消を推進

“地域の食材を、地域の食べ方で、地域で消費する”地産地消の取り組みを通して、地域経済の活性化、食文化の継承を図っています。地元でとれた新鮮な野菜や果物、漁港から届く朝とれたての鮮魚などが並びます。そのため、地元との連携を深め、産地直送を中心とした生鮮食品の仕入れ経路の開発に取り組んでいます。また、「毎日、遠くの名産より近くの逸品」をテーマに各県の生産者、メーカーからの商品を集めた認証フェアを開催し、地域単位での地産地消の機会の拡大に努めています。



食品衛生管理の徹底

外部機関による衛生調査や社員教育を通して、安全・衛生に対する意識の向上に努め、「食」の安全を徹底しています。食品衛生を保つために、デリカ商品の中心温度検査や陳列商品の品温チェックなどを定期的に行うとともに、油の酸化度の確認や使用するまな板・包丁などの衛生確認も実施しています。また、ベーカリーおよびデリカ商品のアレルギー表示など、品質表示の確認も徹底しています。これからも、安全・安心をお客さまの食卓にお届けできるよう、食品衛生管理をさらに強化していきます。



地域に密着した店舗展開



マックスバリュ姫路別所店



ザ・ビッグロックタウン周南店

新店紹介

マックスバリュ姫路別所店

2008年10月に、マックスバリュ姫路別所店を兵庫県姫路市にオープンしました。敷地面積21,247㎡に、ドラッグ、衣料、飲食、地元の専門店などの18店舗から構成されたイオンタウン姫路別所ショッピングセンターの核店舗となっています。「豊富な品揃えと便利な商品を提供する店」をコンセプトに、イオンのプライベートブランド「トップバリュ」をはじめ、新鮮な地場野菜や魚、できたての総菜やお弁当などの食品、毎日の生活に必要な商品を豊富に提供しています。

ザ・ビッグロックタウン周南店

2008年6月に山口県周南市にオープンしたザ・ビッグロックタウン周南店。「フード & プラス」をコンセプトに、売場レイアウト・品揃え・サービスレベル・人員体制などを見直した新たなザ・ビッグ業態店舗です。食料品をはじめとした商品を毎日お買い得価格で提供。それに加え、日用品が地域No.1の品揃えで、EDLP(エブリデー・ロープライス)の実現を目指し、地域のお客さまの生活を応援しています。

■当期開設店舗

所在地	店名	開店日	直営売場面積
1. 山口県防府市	防府東	2008年 3月12日	2,016㎡
2. 兵庫県神戸市	須磨海浜公園駅前	2008年 4月18日	2,081㎡
3. 山口県周南市	ザ・ビッグ ロックタウン周南	2008年 6月 3日	5,263㎡
4. 兵庫県明石市	大久保	2008年 6月 7日	1,506㎡
5. 岡山県倉敷市	イオンタウン水島	2008年 6月10日	2,514㎡
6. 兵庫県姫路市	熊見	2008年 7月10日	1,852㎡
7. 兵庫県加東市	社	2008年 7月10日	2,034㎡
8. 兵庫県たつの市	龍野	2008年 7月31日	2,092㎡
9. 山口県山陽小野田市	厚狭	2008年 9月 4日	2,065㎡
10. 兵庫県姫路市	姫路別所	2008年10月 3日	2,334㎡
11. 兵庫県明石市	イオンタウン明石	2008年10月 3日	3,408㎡
12. 香川県観音寺市	観音寺駅前	2008年11月 5日	2,061㎡
13. 兵庫県たつの市	龍野西	2008年12月26日	1,643㎡
14. 兵庫県加古川市	野口	2009年 1月14日	2,072㎡

積極的なスクラップ&ビルド

当期は14店舗を開店、5店舗を閉店、5店舗において活性化を行いました。SSMを中心に地域特性に合わせた店舗業態の選択を行いながら、瀬戸内沿岸部などの従来の出店エリアの強化に加え、これまで希薄であったエリアへの出店の強化にも努めていきます。積極的なスクラップ&ビルドを推進し、県単位でのシェアNo.1に向けてドミナント形成に取り組んでいきます。

NSC(ネバーフード・ショッピング・センター)

出店の主力となるSSM店舗を核とした集客力と競争力のあるNSC。ドラッグストア、ホームセンター、衣料、家電、飲食などさまざまな業態との共同出店により、ショッピングの魅力を高めています。



広東店(広島県)

SM業態からSSM業態へとスクラップ&ビルドし、2009年3月12日にオープン

■店舗数(2009年2月20日 現在)

	SSM	SM	CSM	BIG	合計
兵庫県	44	29	5	—	78
岡山県	8	1	—	—	9
広島県	6	5	2	8	21
山口県	22	4	—	6	32
愛媛県	2	—	—	—	2
香川県	2	—	—	—	2
合計	84	39	7	14	144

※SSM(売場面積2,000m²規模)、SM(同1,000m²規模)、CSM(同500m²規模)、BIG

■店舗展開



SSM
(スーパー・スーパーマーケット)

売場面積2,000m²規模の店舗です。産地直送の生鮮食品や地元こだわりの商品などを豊富に揃えています。水産・畜産・デリカ・ベーカリー部門での店内調理加工も行っています。



SM
(スーパーマーケット)

人口密集の都市型商圏における1,000m²規模の店舗です。地域特性を把握した、きめ細かな品揃えとともに、生鮮部門の店内調理も行っています。



CSM
(コンビニエンス・スーパーマーケット)

500m²規模の小型店舗です。お客さま満足度を高めるため、1日3便の物流体制を強化して、新鮮な食材・食品などを提供しています。



BIG
(ザ・ビッグ)

衣食住総合の店舗です。衣料品では実用衣料、食品においては生鮮品が主力商品となり、品揃えも充実させています。



フレックス委員会

「フレックス委員会」では、各店営業エリアの生活者であり、地域の情報・食習慣などに精通しているフレックス社員（パートタイマー）の視点を、店舗運営に反映させています。この活動により、地域密着戦略を実践し、全員参加型の業務推進を行っています。フレックス社員の店舗運営への参加により、現場における「コミュニケーションの向上」から「課題の共有化」「解決」へとつながっています。また、好事例は「ベスト・プラクティス」として全店に水平展開しています。



フレックス委員会活動発表会を開催

フレックス社員が日々取り組んでいる改善活動を発表する「第1回フレックス委員会活動発表会」を2008年11月に開催し、マックスバリュ西日本が運営する全店舗から選抜された17店舗の各代表者が参加しました。地域に密着した取り組み、お客さま満足を得られた活動などを発表することで情報の共有化を図るとともに、好事例を聞く場として他店従業員との結束を強め、委員会活動の底上げとさらなる向上を図りました。



技術向上を目指して

技術認定制度の拡大により、一人ひとりの技術レベルの向上に取り組んでいます。また、農産、水産、畜産、デリカ、ベーカリー、チェッカーの各部門の専属技術トレー



ナーが、技術認定制度に基づいた研修と検定を実施しており、レベルの高いプロを育成しています。

チェッカー・コンクールを開催

「お客さまから信頼されるチェッカーを目指して」のスローガンのもと、「第5回チェッカーコンクール」を、2008年11月14日と12月3日の2日間、姫路と広島の2会場にわけて開催しました。ステージ上で他店の従業員とレジでの接客技術を競い合うことで、接客技術の向上と意識改革に努めることができました。また、この経験を店舗の従業員に伝えることで、接客技術の重要性と楽しさを再認識してもらい、チェックアウトレベルの向上に取り組んでいます。



お客さま満足の向上

お客さま満足のさらなる向上を目指し、さまざまな取り組みを行っています。「スマイルリーダーキャンペーン」では、全従業員の投票で、いつも笑顔で心のこもった対応をしている社員を選び、現在766名がスマイルリーダーとして認定されています。



また、お客さまから喜ばれたことを書きとめ、お店に掲載し、喜ばれたプロセスを全員で共有する「ハッピーリーダー」の取り組みを実践しています。本部に集まった事例の中から好事例を全店に配信。朝礼などで紹介し、同じように親切な対応ができるようサービスの向上に努めています。

セルフレジ導入の拡大

セルフレジは、お客さまが画面表示と音声ガイドに沿ってレジ精算ができ、少ない点数のお買物の際に短時間で支払いを済ませることができるシステムです。お問い合わせや操作のお手伝いなどは、必要に応じてセルフレジ管理



のレジ担当者が対応します。また、従来のレジと併設することで、お客さまの希望に合わせてレジを選択してもらえるようにしています。現在、セルフレジを26店舗に設置しており、今後もお客さま満足の向上を目指し、セルフレジの導入を拡大していきます。

CSRへの取り組み

店舗での環境への取り組み

持続可能な社会を実現するため、「イオン温暖化防止宣言」に基づき、地球温暖化の主な要因であるCO₂削減に取り組んでいます。その活動の一環として、新店・改装店舗において、新たな省エネシステムの導入・拡大を進めています。

太陽光発電(ソーラーパネル)

太陽光を利用した発電により、店舗での使用電力を削減します。店舗内に設置したテレビモニターで、お客さまに発電電力量や日射強度、CO₂排出抑制量などの状況をご覧いただけるようにしています。



壁面緑化

店舗壁面に植物を植樹することにより、緑のカーテンを育成しています。環境に配慮した緑化によるCO₂の削減を推進します。



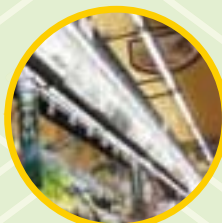
LED照明

エネルギー効率に優れ、低消費電力であるLED照明の店舗正面看板や冷凍ケースへの導入を進めています。これにより通常照明と比較して、年間約55%の電力量削減が期待できます。



調光センサー

レジゾーンの基本照明や夜間店内環境補助照明に調光センサーを導入することで、照度を自動コントロールします。これにより通常照明と比較して、年間約40%の電力量削減が期待できます。



オーバークャノピー照明

冷蔵・冷凍ケースの上部にオーバークャノピー照明を設置。全棚照明の使用量を削減することができ、通常照明と比較して年間約20%の電力量削減が期待できます。



リサイクルボックス

お客さまにお持ちいただいた牛乳パック、アルミ缶、スチール缶、食品トレイ、ペットボトルをわかりやすく分別できるリサイクルボックスを店頭を設置し、回収しています。回収したものはすべてリサイクル業者に委託し、再資源化を行っています。



レジ袋削減への取り組み

地球温暖化防止への取り組みのひとつとして、地元行政や消費者団体の協力のもと、店舗でのレジ袋の無料配布の中止を進めており、現在78店舗において実施しています。マイバッグを持参されて



太子町レジ袋協定

いないお客さまには、レジ袋を1枚5円でお買い求めいただけます。この収益金は、地域と環境省へ還元し、環境保全活動に役立てていただいています。

また、マイバッグ持参率80%を目標に、買物袋持参運動を推進しています。イオンオリジナルの携帯用マイバッグ、レジカゴ用マイバッグ、店内カゴに重ねてお買い物ができるお持ち帰り専用のマイバスケットも販売しており、便利で使いやすいとお客さまから好評を得ています。

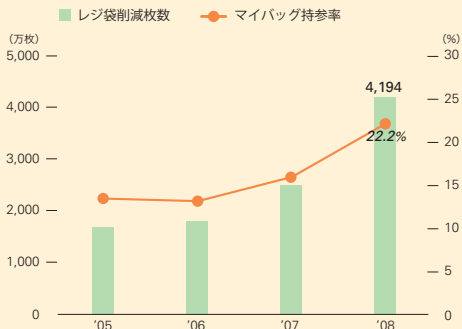


イオンオリジナル マイバスケット



イオンオリジナル マイバッグ

「マイバッグ持参率」と「レジ袋削減枚数」の推移



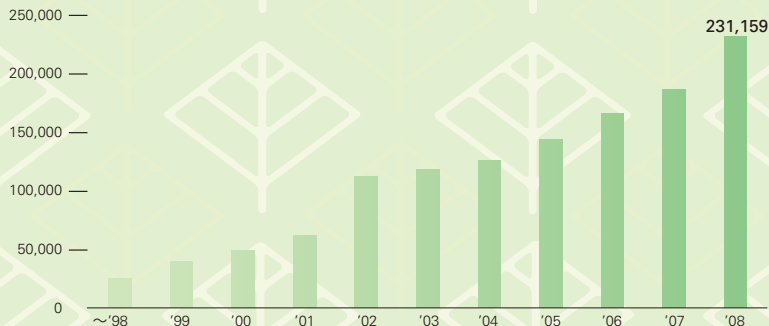


イオン ふるさとの森づくり

新店のオープンに際して、地域住民の皆さまとともに店舗周辺に植樹する活動「イオン ふるさとの森づくり」を継続的に実施しています。当期は、イオンタウン水島店、姫路別所店、観音寺駅南店にて植樹を行い、その結果、累計植樹本数は231,159本となりました。

■マックスバリュ西日本の植樹本数 (累計)

(単位：本)



イオン・デー

環境と地域還元をテーマに、毎月11日に地域貢献活動を行うイオン・デー。その活動のひとつとして「幸せの黄色いレシートキャンペーン」を実施しています。お客さまのレシートを店内備え付けの地域ボランティア団体名が書かれた投函BOXに入れていただき、お買い上げ金額の1%をそれぞれの団体に還元しています。そのほかに、店舗近隣の公園や河川敷、公共施設などの清掃活動を行い、地域社会に貢献しています。

ラオス学校建設支援活動のご報告

イオングループの一員として、ラオス人民共和国の学校建設支援募金を店頭にて実施してきました。お寄せいただいた募金は、財団法人日本ユニセフ協会を通じて学校建設に役立てられ、2006年から2008年までの3年間で、9校が建設されました。



地域清掃活動



幸せの黄色いレシートキャンペーン



建設支援した学校での授業風景

食育への取り組み

社会貢献活動の一環として、食育体験学習会を開催しています。店舗近隣の小学校の生徒が授業として参加しており、当期末時点では、累計実施回数は20市町、27店舗に上っています。各回とも多くの小学生が参加し、管理栄養士の指導のもと、店内にて調理や試食などを体験しながら「食」について楽しく学びました。今後も食育活動を通じて、地域のお客さまの健康で豊かな食生活の実現を目指していきます。



■食育体験学習会プログラム



- 1 食育体験学習会 開始**
マックスバリュ食育体験学習会についての説明があります



- 2 食物の「5大栄養素」
「食事バランスガイド」の解説**
野菜や果物の必要性や、1日に必要な摂取量などを学びます



- 3 お買い物ゲーム**
4～5人のグループに分かれ、ミッションに基づき野菜や果物をお買い物します



- 7 感想**
子どもたちが体験学習会の感想を述べます



- 6 クッキング・試食**
野菜を使って簡単クッキングと試食をします



- 5 食べ物の旅**
食べるだけでなく、排泄の大切さを学びます



- 4 集荷発表**
買った野菜についてグループで発表し、講師がコメントします
クイズ形式で野菜や果物の栄養や特徴も学びます

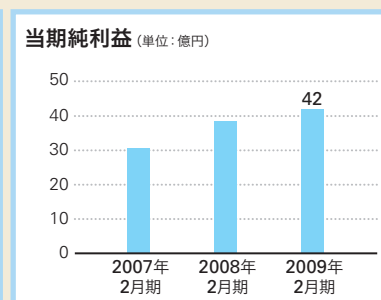
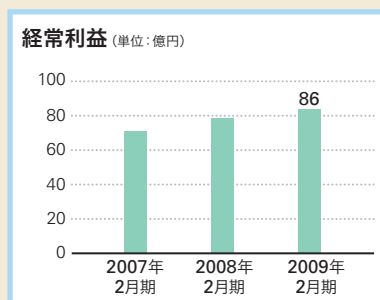
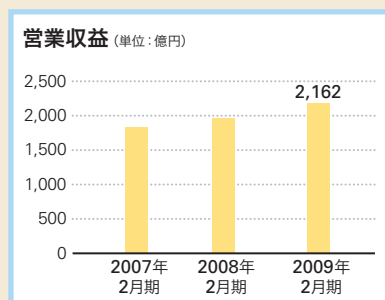
財務ハイライト

主要財務指標

(単位:百万円)

	当期 2009年2月期	前期 2008年2月期
売上高	211,829	192,107
営業収益	216,286	195,938
営業利益	8,384	7,670
経常利益	8,633	7,951
当期純利益	4,285	3,865
1株あたり当期純利益(円)	163.88	147.83
総資産	69,106	63,331

※金額単位は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



当期の概況

当期は、前期に引き続き「顧客満足業」を目指して、「基本の徹底」に基づく施策を精力的に実施しました。具体的には、2007年2月期より継続して取り組んでいる「3C分析」(Consumer=消費者、Competitor=競合、Company=会社)の、店舗別の強化とあわせて、「3現主義」(現場・現物・現実)のさらなる推進に努めました。

商品においては、品質および鮮度面での差別化戦略の推進と並行して、景気後退につれて高まりを見せつつある価格志向商品への対応強化に努めました。特にイオン共通のプライベート・ブランド「トップバリュ」では、新たなラインアップも加わり、売上構成比では前期の7.4%から8.6%へと向上しました。また、ローコスト・オペレーションの定着と出店数の大幅な増加に対処するため、組織上からもストアオペレーション本部を設置することにより、店舗の生産性向上に取り組みました。これらの効果から、売上高は既存店ベースで対前期比103.0%と高い伸び率となり、売上総利益率では前期の24.8%から25.0%へと増加させることができました。

店舗開発では、出店計画に基づく積極的なスクラップ&ビルドの推進により、当期は14店舗の新設を行うとともに、既存店舗では5店舗の活性化を実施しました。これらの店舗の開設などにおける投資額126億7百万円は、自己資金でまかっています。

こうした取り組みの結果、営業収益は2,162億86百万円(対前期比110.4%)、営業利益83億84百万円(対前期比109.3%)、経常利益86億33百万円(対前期比108.6%)、当期純利益42億85百万円(対前期比110.8%)となり、増収増益を果たすことができました。また、営業利益、経常利益、当期純利益については、過去最高益を更新することができました。

なお、次期の見通しにつきましては、営業収益2,300億円(対前期比106.3%)、経常利益86億50百万円(対前期比100.2%)、当期純利益43億円(対前期比100.3%)を見込んでいます。

財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)

	当期	前期
	2009年2月20日現在	2008年2月20日現在
(資産の部)		
流動資産	14,284	16,479
固定資産	54,822	46,851
(有形固定資産)	40,851	31,489
(無形固定資産)	121	117
(投資その他の資産)	13,849	15,245
資産合計	69,106	63,331
(負債の部)		
流動負債	32,153	28,950
固定負債	5,822	5,024
負債合計	37,975	33,974
(純資産の部)		
資本金	1,667	1,667
資本剰余金	4,641	4,641
資本準備金	4,641	4,641
利益剰余金	23,560	20,189
利益準備金	371	371
その他利益剰余金	23,188	19,818
特別償却積立金	22	—
固定資産圧縮積立金	37	37
別途積立金	16,700	14,700
繰越利益剰余金	6,429	5,081
自己株式	△52	△50
株主資本合計	29,815	26,448
その他有価証券評価差額金	1,289	2,907
評価・換算差額等合計	1,289	2,907
新株予約権	25	—
純資産合計	31,131	29,356
負債及び純資産合計	69,106	63,331

損益計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	自 2008年2月21日 至 2009年2月20日	自 2007年2月21日 至 2008年2月20日
売上高	211,829	192,107
その他の営業収入	4,457	3,830
営業収益	216,286	195,938
売上原価	158,846	144,404
営業総利益 (売上総利益)	57,440 (52,983)	51,533 (47,702)
販売費及び一般管理費	49,056	43,863
営業利益	8,384	7,670
営業外収益	319	348
営業外費用	70	68
経常利益	8,633	7,951
特別利益	12	169
特別損失	479	1,185
税引前当期純利益	8,167	6,936
法人税、住民税及び事業税	3,701	3,242
法人税等調整額	180	△172
当期純利益	4,285	3,865

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	自 2008年2月21日 至 2009年2月20日	自 2007年2月21日 至 2008年2月20日
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	7,484	6,617
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,240	△3,281
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,341	△2,160
IV 現金及び現金同等物の増減額	△4,098	1,175
V 現金及び現金同等物の期首残高	5,914	4,738
VI 現金及び現金同等物の期末残高	1,815	5,914

株主資本等変動計算書 (自 2008年2月21日 至 2009年2月20日)

(単位:百万円)

	株主資本									自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金										
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	特別償却 積立金	固定資産 圧縮積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計						
2008年2月20日残高	1,667	4,641	4,641	371	—	37	14,700	5,081	20,189	△50	26,448	2,907	2,907	—	29,356
事業年度中の変動額															
剰余金の配当	—	—	—	—	—	—	—	△915	△915	—	△915	—	—	—	△915
特別償却積立金の積立	—	—	—	—	22	—	—	△22	—	—	—	—	—	—	—
その他剰余金の処分	—	—	—	—	—	—	2,000	△2,000	—	—	—	—	—	—	—
当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	4,285	4,285	—	4,285	—	—	—	4,285
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△2	△2	—	—	—	△2
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△1,617	△1,617	25	△1,592
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	22	—	2,000	1,347	3,370	△2	3,367	△1,617	△1,617	25	1,774
2009年2月20日残高	1,667	4,641	4,641	371	22	37	16,700	6,429	23,560	△52	29,815	1,289	1,289	25	31,131

会社情報・株式情報

会社概要

2009年2月20日現在

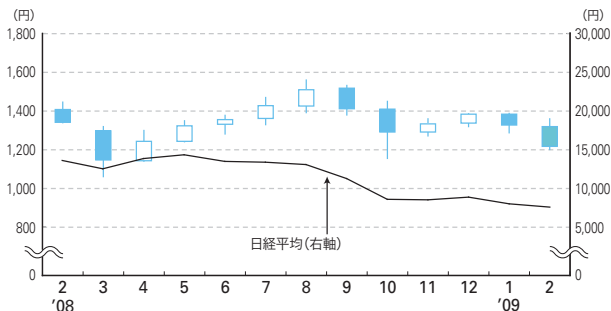
社名	マックスバリュ西日本株式会社
設立	1982年3月5日
事業内容	食料品および日用雑貨用品の小売販売
資本金	16億6千7百万円
営業所数	144店舗
従業員数	1,425名 (パートタイマーを含まず)
本社	〒670-0935 兵庫県姫路市北条口四丁目4番地 079-288-6966 (代表)
主要取引銀行	三井住友銀行姫路支店 みずほ銀行姫路支店
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社

取締役および監査役

2009年5月12日現在

代表取締役社長	藤本 昭	取締役	野口 和弘
常務取締役	三田 幸視	取締役	坂野 邦雄
常務取締役	谷口 一郎	取締役	石本 恵一
常務取締役	井戸 智文	常勤監査役	山崎 惣三郎
取締役	久保田 智久	監査役	山本 哲夫
取締役	下澤 茂樹	監査役	村中 誠二
取締役	渡辺 哲久	監査役	松下 英夫
取締役	林 洋次		

株価の推移



株式状況

2009年2月20日現在

株主数	9,163名
会社が発行する株式の総数	90,000千株
発行済株式総数	26,192千株

大株主

イオン株式会社	15,203千株
マックスバリュ西日本グループ社員持株会	541
株式会社みやもと	509
宮本 一男	479
山本 哲夫	467
丸魚水産株式会社	452
新光商事株式会社	420
株式会社コックス	389
加藤産業株式会社	323
株式会社フードサプライジャスコ	238

株主メモ

2009年2月20日現在

決算期	2月20日 (年1回)
基準日	2月20日 その他必要ある時は、予め公告いたします。
定時株主総会	5月 (ただし20日までに開催いたします。)
株主名簿管理人	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒530-0004 大阪府北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 0120-094-777 (通話料無料)

「株主様ご優待券」のご利用対象店舗が拡大しています



全国の
ジャスコでも
使えます!

当社の直営店舗(マックスバリュ、ザ・ビッグ、ウエルマート全店)およびイオングループの12社が全国で運営するジャスコ、マックスバリュ、スーパーセンター、メガマート、ポスフルでご利用できます。株主優待制度の拡大は、株主さまからのイオングループ各店で、「株主様ご優待券」を利用したいとのご要望にお応えし、実施しています。

ご優待は保有株式数に応じて

2月20日の最終株主名簿に記載、または記録された100株以上保有されている株主さまに、保有株式数に応じて、右記のとおり「株主様ご優待券」をお送りいたします。

保有株式数	優待基準
100株~999株	50枚(5,000円)
1,000株~1,999株	100枚(10,000円)
2,000株以上	200枚(20,000円)

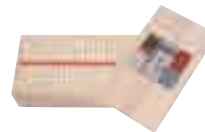
1,000円以上のお買い物から

1,000円ごとに100円券1枚がご使用できます。ご利用いただける1回のお買い上げ金額(1枚のレシート金額)は、1,000円以上となります。



地域特産品への変換も

1,000株以上保有の株主さまには、「株主様ご優待券」が当社指定の地域特産品「揖保乃糸」のいずれかを、また、100株以上1,000株未満保有の株主さまには、ご希望により「株主様ご優待券」が当社指定の地域特産品「いかなこのくぎ煮」のいずれかをお選びいただけます。



イオン銀行ATM

店舗営業時間であればいつでもご利用いただけるイオン銀行のATM。イオンの電子マネー「WAON」のチャージも1,000円単位で可能で、イオンバンクカードならATM利用手数料がいつでも無料*。さらに、定期預金へのお振替え、定期預金の明細照会・解約予約、積立式定期預金の残高照会の手続きも可能です。マックスバリュ西日本は、全店舗においてイオン銀行のATMを導入しており、お買物での利便性のさらなる向上を図っています。

*他行宛のお振込などには、所定の手数料がかかります。





マックスバリュ西日本に関する情報はホームページでご覧になれます。

お得なお買物情報からニュースリリース、環境保全・社会貢献活動までマックスバリュ西日本のことがわかるホームページです。IR情報については、「会社情報/IR情報」にてご確認くださいませ。ぜひ、お気軽にご利用ください。

<http://www.maxvalu.co.jp>

証券コード8287



マックスバリュ西日本株式会社は環境の国際規格「ISO14001」の認証取得企業です。